

■住民・第3分科会【事例報告】

◎NPO法人 八女町家再生応援団

○テーマ：「空き家の再生は町並み保存の緊急課題」

○発表者：代表・北島力（きたじま つとむ）

団体所在地：〒834-00341 八女市本町 264

☎090-8413-6128 E-mail：bynrt982@ybb.ne.jp

<http://yame-machiya.net> 「八女町家ねっと」

理事会等：理事 8 名、会員数：14 名、年会費：5,000 円

設立年月日：2003 年（H元）年 8 月（翌年 1 月法人取得）

●【地区の概要、団体発足の経緯】

八女市の市街地である福島地区は、江戸期の直前に整備された福島城の城下町の町割りをそのまま受け継いでおり、江戸から明治期に物産の集散地として栄えた商家町です。地区には「居蔵（いぐら）」と呼ばれる土蔵造の町家建築等が連続して残っています。

この文化遺産を保存活用することを目的として、町並み地区は少子高齢化・空洞化が進み、町家が空き家になる傾向が顕著になるなかで、再生活用を積極的に進めるため、本応援団が発足しました。



図 1 八女福島の町家建築（居蔵造）

●【主な活動内容】

○町家の保存活用のための仲人等の活動

空き町家の解体を未然に防ぎ保存活用するため、まず家主の意向調査等を行い、貸して活用を図るように説得します。そして、町家の魅力を感じて希望される「借り手」の方に空き町家を紹介しています。



図 2 町家カフェしおや・2007 開店（一階内部）
建物の修理にあたっては、建築の技術・技能者の集

団「NPO 八女デザイン研究会」と連携し、町家の価値を損なわないような修理工事をサポートしています。また、賃貸等の成立後、借り手の方が店舗や住宅等で利用されてからも、様々な関係とキープしています。現在まで、30 軒を超える町家の仲人を行いました。（店舗、店舗兼住宅、工房兼住宅、工房兼店舗、住宅など）

○町家の保存活用のための魅力発信等の活動

町家の魅力を市民や来訪者に知っていただくため、保存活用している再生町家で期間限定の八女茶の「町家カフェ」、「町家一般公開」や町家の空間利用を知っていただくため「町家中庭めぐり」などを企画し、文化財としての価値はもちろんのこと匠の技術や知恵を宣伝し継承する活動をしています。



図 3 町家の一般公開（子どもたちの八女茶のもてなし）

○町家の保存活用のためのメンテナンス等の活動

町家は、昔から防腐等のため外壁等にベンガラ柿渋塗り（柿渋にベンガラ＝赤色顔料を溶かし少し墨等を混ぜてつくる）を定期的に行って維持してきました。高齢化が進みその作業ができなくなってきたため、希望する家主さん（材料費を負担）に代わり私たち応援団が市民に呼びかけて、ワークショップ形式で建築士等の指導をうけ、ベンガラ柿渋塗りを行っています。



図 4 ベンガラ柿渋塗り（町家の外壁）

●【今後の活動】

これからの空き町家の保存活用の活動は、建物が大規模であったり、後継者問題、相続問題など多くの課題を抱えており、まちの魅力づくりとともに新住民のネットワークづくりを含めて、さらに仲間の輪を広めつつ取組んでいく決意です。